

続けられるまちの土台「NCC」

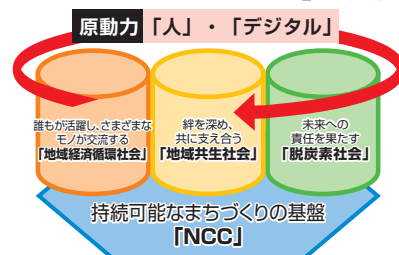


本市では、今後、人口減少や少子・超高齢化の進行など、社会環境が大きく変化する中で、子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなう「スーパースマートシティ」を目指しています。

今回は、本市が将来にわたり持続的に発展するためのスーパースマートシティの「土台」となるコンパクトなまちが公共交通でつながった、「NCC(ネットワーク型コンパクトシティ)」について紹介します。

問 都市計画課 ☎(632)2565

「スーパースマートシティ」の実現



ハッピー ミヤリー



まちの土台となる「NCC」のことを教えて！

今あるまちを、人口減少や超高齢社会といったまちの将来に合わせ、コンパクトなまちにしていかなないと、生活に必要な施設や公共交通の利用者が減って、身近な病院やお店が撤退したり、鉄道やバスの本数や路線が減ったりして、不便で住みづらいまちになってしまふんだ。それに、高齢者が増えて、子どもや若者、働く世代の人が減ってくると、社会を支えている人たちに、多くの負担が掛かってしまふ心配があるんだ。そこで、みんなが便利で快適に暮らせ、支える側が支えやすくなるように、コンパクトなまちが公共交通でつながった持続的に発展できる、まちの土台「NCC」を実現しようとしてるんだよ。



まちと公共交通は、どうつながっていくのかな？



宇都宮市は、長い歴史を誇る二荒山神社の門前町、宇都宮城の城下町・宿場町として発展した中心部と、古くから発展してきた周辺の各地域から成り立っていて、中心部と各地域は、鉄道やバスなどの公共交通や、古くからの街道などの交通ネットワーク

100年先も持続的に発展し



「スーパースマートシティ」の実現は世界共通の目標である SDGs の達成にも寄与します



で結ばれているんだ。

この地域の歴史や成り立ちを生かして、中心部の都市拠点や身近な地域拠点に、病院や買い物など、生活に必要なまちの機能を集めているんだ。その拠点間を、便利で快適に移動できるように誰もが利用しやすい公共交通がネットワーク化したまちづくりを進めているんだ。また、交通系ICカード「totora」や上限運賃制度の導入なども進めているよ（54ページ参照）。

NCCができると、生活はどう変わるの？

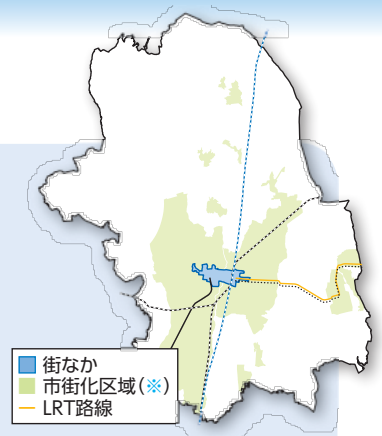
中心部や駅周辺、LRT・バス路線沿線などに、生活に必要な機能が集まってきて、便利になったり、郊外には自然が豊かでゆとりある場所ができたりして、いろいろな暮らし方が選択できるようになるんだ。暮らしやすくなれば、市内外の多くの人や企業から「選ばれるまち」になっていくんだよ。他にも、自動車を使えない人たちが外出しやすいまちや、高齢者や子どもなどを地域で見守ることができる、優しいまちにもなっていくんだ。

次のページから、これからの生活がどう変わるかを見ていこう。

街なか(高次都市機能誘導区域)



宇都宮の顔であり、市全体の発展をリードする「街なか」では、まちの活力やにぎわいを生み出す商業や医療、大学などの都市機能の誘導や居心地がよく、歩いて楽しいまちづくり、誰もが快適に移動できる公共交通のネットワークづくりなどを進めることで、街なかの魅力や価値を高めていくよ。



NCCの取り組み

拠点化(コンパクト化)の促進

街なかへ、高度な医療や百貨店、大学などの多様で魅力的な都市機能を誘導し充実させます。併せて、居住選択に応じて、緩やかに居住を誘導します。

本市では、次のような支援を行っています。

■都市機能誘導支援策

▼都市機能誘導施設立地促進補助金 ID 1014162

■居住誘導支援策

▼マイホーム取得支援事業補助金 ID 1015795

▼フラット35地域連携型(金利優遇) ID 1020316

▼若年夫婦・子育て世帯等
家賃補助金 ID 1015797



ネットワーク化の促進

LRTの整備と合わせてバスの早朝・深夜帯などの運行時間の拡大や、これまで公共交通が通っていなかった交通空白地域などへ路線を拡大します。

また、乗り継ぎしやすい運行ダイヤを編成することで、利便性の高いバスネットワークを再編します。

鉄道・LRTから目的地までの移動手段として便利なシェアサイクルなどを導入します。

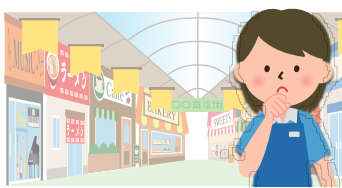


まちの姿や生活の変化

NCCは「つくる」から「つかう」ステージへ

Before

- ▼商店街の人通りやにぎわいが減り、店舗などが撤退する悪循環にならないか心配。
- ▼居心地がよく憩える場所も少なく、あまり街なかに魅力を感じられない。

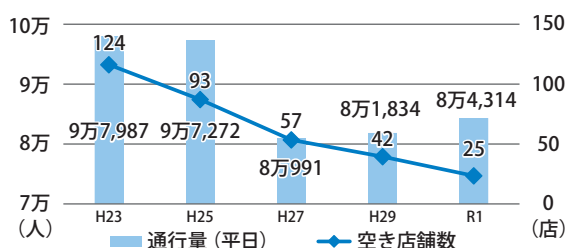


魅力的な街になってほしいけど、このままだったら、仕事も遊びも選択肢の多い首都圏で生活したいな。

まちづくりの効果(例)

街なかの通行量(平日)の増加と空き店舗数の減少

通行量(平日)は近年増加傾向、空き店舗の数が5分の1に減少



出典 商店街通行量実態調査、宇都宮市中心市街地空き店舗情報システム

After

- ▼街なかへの魅力ある店舗、飲食店などの出店や、周辺地域から街なかにアクセスしやすい環境整備、オープンカフェ、ベンチの設置など、居心地がよく歩いて楽しい空間ができ、まちが活力に満ちてにぎわう。
- ▼商店街や飲食店などの売上も高まり、さらにさまざまな施設が充実する好循環に。



飲食や会話を楽しめる魅力的なお店が増え、市外からも観光に来る人が増えて、街がにぎやかになったわ！

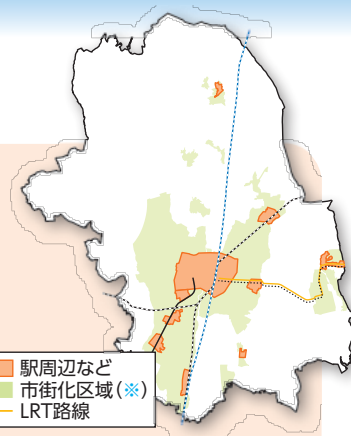
Case
2

駅周辺など(都市機能誘導区域)



地域の顔であり、さまざまな交通手段をつなぐ「駅周辺など」では、生活に便利な施設の充実や誰もが快適に移動できる公共交通のネットワークづくりなどを進めることで、身近な場所で通院や買い物など、便利で快適に生活できる環境を整えていくよ。

■ 駅周辺など
■ 市街化区域(※)
■ LRT路線



NCCの取り組み

拠点化(コンパクト化)の促進

駅周辺などへ、市民の日常生活を支える医療・福祉、商業などの都市機能を誘導します。併せて、居住選択に応じ、緩やかに居住を誘導します。

本市では、次のような支援を行っています。

■ 都市機能誘導支援策

▼ 都市機能誘導施設立地促進補助金 ID 1014162

■ 居住誘導支援策

▼ マイホーム取得支援事業補助金 ID 1015795

▼ フラット35地域連携型(金利優遇) ID 1020316

▼ 若年夫婦・子育て世帯等家賃補助金

ID 1015797



ネットワーク化の促進

バスの早朝・深夜帯などの運行時間の拡大や、これまで公共交通が通っていなかった交通空白地域などへ路線を拡大します。

また、乗り継ぎしやすい運行ダイヤを編成することで、利便性の高いバスネットワークを再編します。



まちの姿や生活の変化

NCCは「つくる」から「つかう」ステージへ

Before

▼ 駅前なのに、スーパーマーケット、クリニック、子育て施設などが少なく、自動車で郊外まで買い物や通院、送迎が必要な場合もある。

身近なところに子どもを預けられる施設があまり無いから、美容院や病院になかなか行くことができない。不便だわ。



After

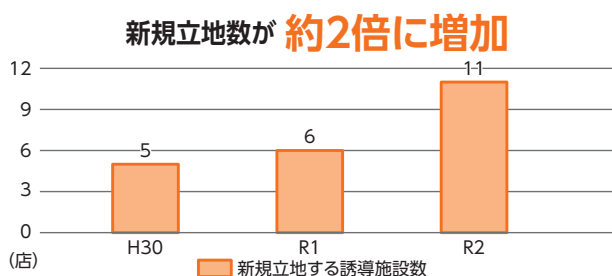
▼ 歩いて暮らせる範囲に、商業や医療などさまざまな生活サービス施設が充実。

▼ 子育て施設の近くにスーパーマーケットがあり、仕事後、買い物をしてからすぐに迎えに行ける。



まちづくりの効果(例)

駅周辺などに新規立地する誘導施設数
(商業、医療、子育て支援など)の増加

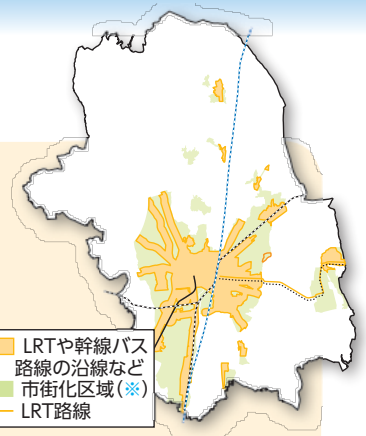


出典 建築確認申請(宇都宮市)

LRTや幹線バス路線の沿線など(居住誘導区域)



公共交通が便利な「LRTや幹線バス路線の沿線など」では、子育て世代など新しい居住者の誘導や誰もが快適に移動できる公共交通のネットワークづくりなどを進めることで、公共交通を使いながら身近な拠点などで便利で快適に生活できる環境を整えていくよ。



NCCの取り組み

拠点化(コンパクト化)の促進

LRTや幹線バス路線の沿線などへ、居住選択に応じて、緩やかに居住を誘導します。

本市では、次のような支援を行っています。

■ 居住誘導支援策

- ▼ マイホーム取得支援事業補助金 ⑩ 1015795
- ▼ フラット35地域連携型(金利優遇) ⑩ 1020316
- ▼ 若年夫婦・子育て世帯等家賃補助金 ⑩ 1015797



ネットワーク化の促進

LRTの整備と合わせてバスの早朝・深夜帯などの運行時間の拡大や、地域内交通の導入など、これまで公共交通が通っていなかった交通空白地域などへ路線を拡大します。

また、乗り継ぎしやすい運行ダイヤを編成することで、利便性の高いバスネットワークを再編します。



まちの姿や生活の変化

NCCは「つくる」から「つかう」ステージへ

Before

- ▼ バス利用者が減り、バスの減便や路線廃止により、公共交通が不便にならないか不安を抱えている。
- ▼ 街なかなどに出掛けにくくならないか心配。

通勤・通学時の慢性的な交通渋滞に巻き込まれて、プライベートの時間がなかなか取れない。



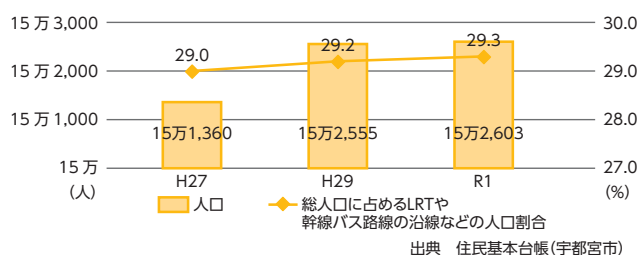
After

- ▼ 過度に自動車に頼らなくても、LRTやバスを使って街なかや身近な拠点などで、さまざまな生活サービスが受けられる。
- ▼ LRTやバス、地域内交通などの総合的な、公共交通ネットワークの形成によってマイカー利用が減り、渋滞緩和や交通事故も減少。

まちづくりの効果(例)

LRTや幹線バス路線の沿線などの人口が増加

総人口が減少する中で
LRTや幹線バス路線の沿線などの人口は
約1,200人増加

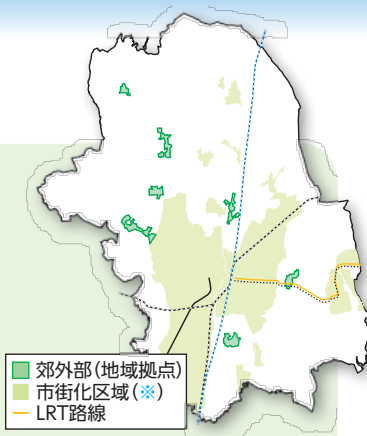


Case
4

郊外部(市街化調整区域の地域拠点など)



身近な自然に親しめる郊外部(市街化調整区域の地域拠点など)では、生活に便利な施設や子育て世代など新しい居住者の誘導、誰もが快適に移動できる公共交通のネットワークづくりなどを進めることで、便利で快適に生活できる環境を整え、地域コミュニティを維持していくよ。



NCCの取り組み

拠点化(コンパクト化)の促進

市街化調整区域の地域拠点へ、市民の日常生活を支えるスーパーマーケットや診療所などの生活利便機能を誘導します。併せて、居住選択に応じて、緩やかに居住を誘導します。

本市では、次のような支援を行っています。

■都市機能誘導支援策

▼都市機能誘導施設立地促進補助金 ID 1014162

■居住誘導支援策

▼マイホーム取得支援事業補助金 ID 1015795

▼フラット35地域連携型(金利優遇) ID 1020316

▼地区計画制度の活用支援 ID 1009284



ネットワーク化の促進

バスの早朝・深夜帯などの運行時間の拡大や、これまで公共交通が通っていなかった交通空白地域などへ路線を拡大します。

また、乗り継ぎしやすい運行ダイヤを編成することで、利便性の高いバスネットワークを再編します。

今後、地域内交通の充実や、LRTやバスと地域内交通との接続も強化し、乗り継ぎポイントにおける停留所やバス接近表示機の設置など、利用環境の整備を進めていきます。



まちの姿や生活の変化

NCCは「つくる」から「つかう」ステージへ

Before

- ▼自動車免許を返納したが、バスなどの公共交通が充実しておらず、病院や買い物にもなかなか行けないため、日常生活を送るのが不便。
- ▼地域の子どもの数が減って、地域のお祭りなどができなくなってしまったことが残念。

外出したくても便利な交通手段がないので、家から出ない日々が続いているわ。



After

- ▼身近な拠点にスーパーマーケット、クリニックなどが建ち、バスや地域内交通でアクセスしやすくなり、自分で買い物や通院などができる。
- ▼外出や歩く機会が増え、健康や体力が維持できる。
- ▼子育て世代などが増え、お祭りなど地域イベントができるようになり、地域コミュニティが活性化。



まちづくりの効果(例)

子どもや子育て世代の人口増加

地区計画制度を活用した市街化調整区域の小学校周辺(清原東小学校周辺)の子どもの数が **約14%増加**

